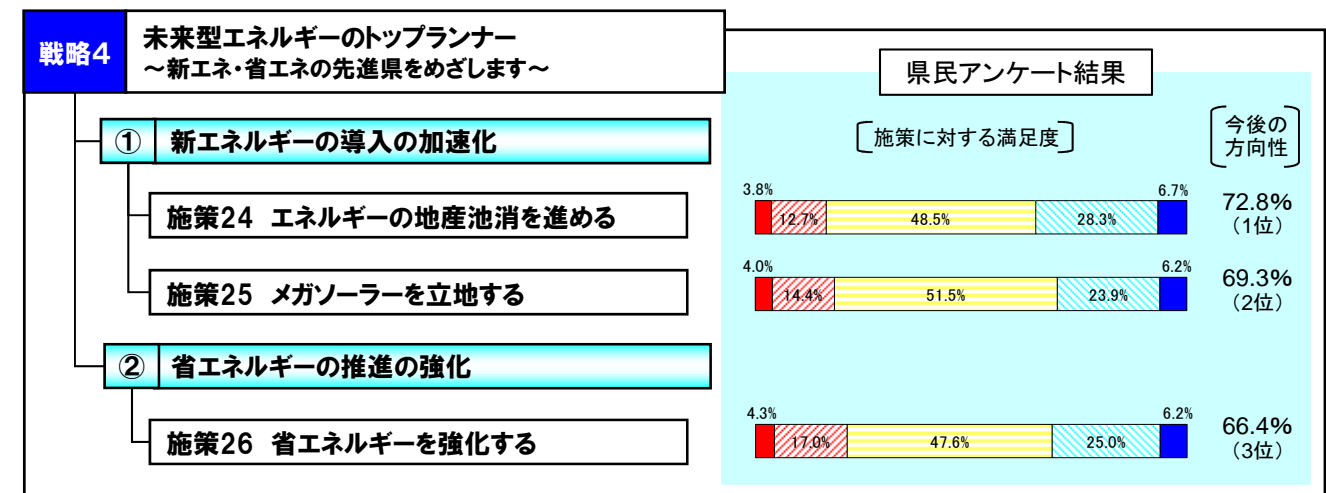
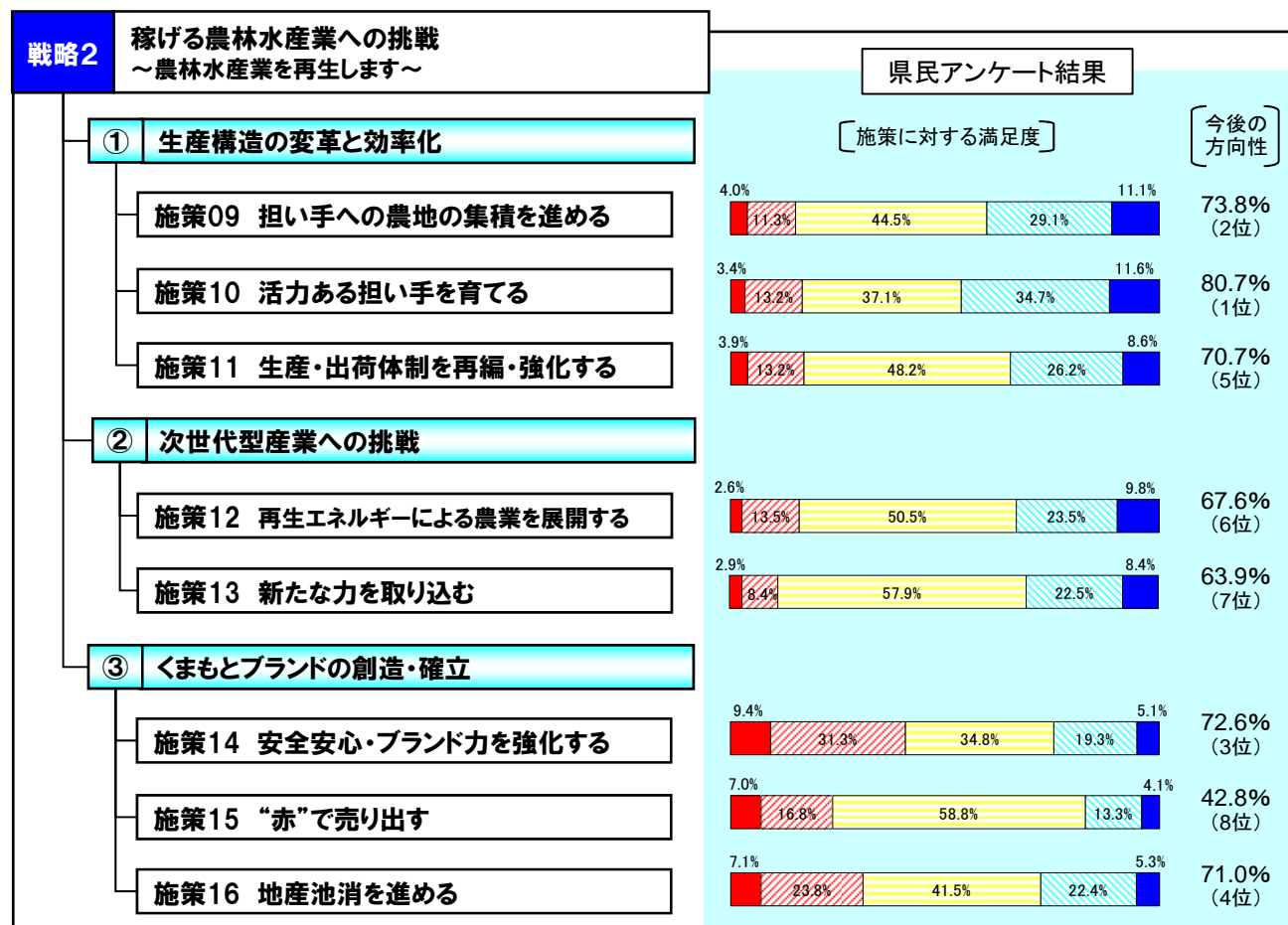
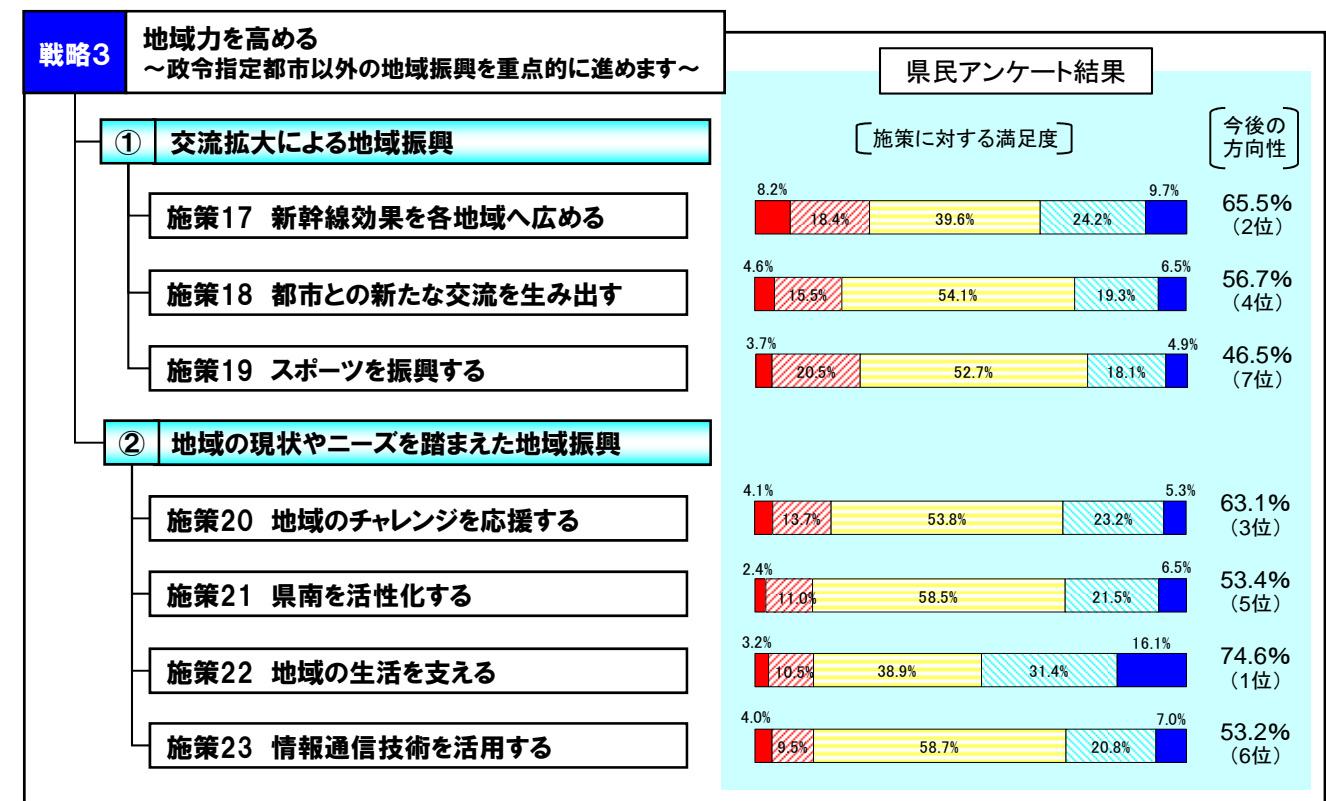
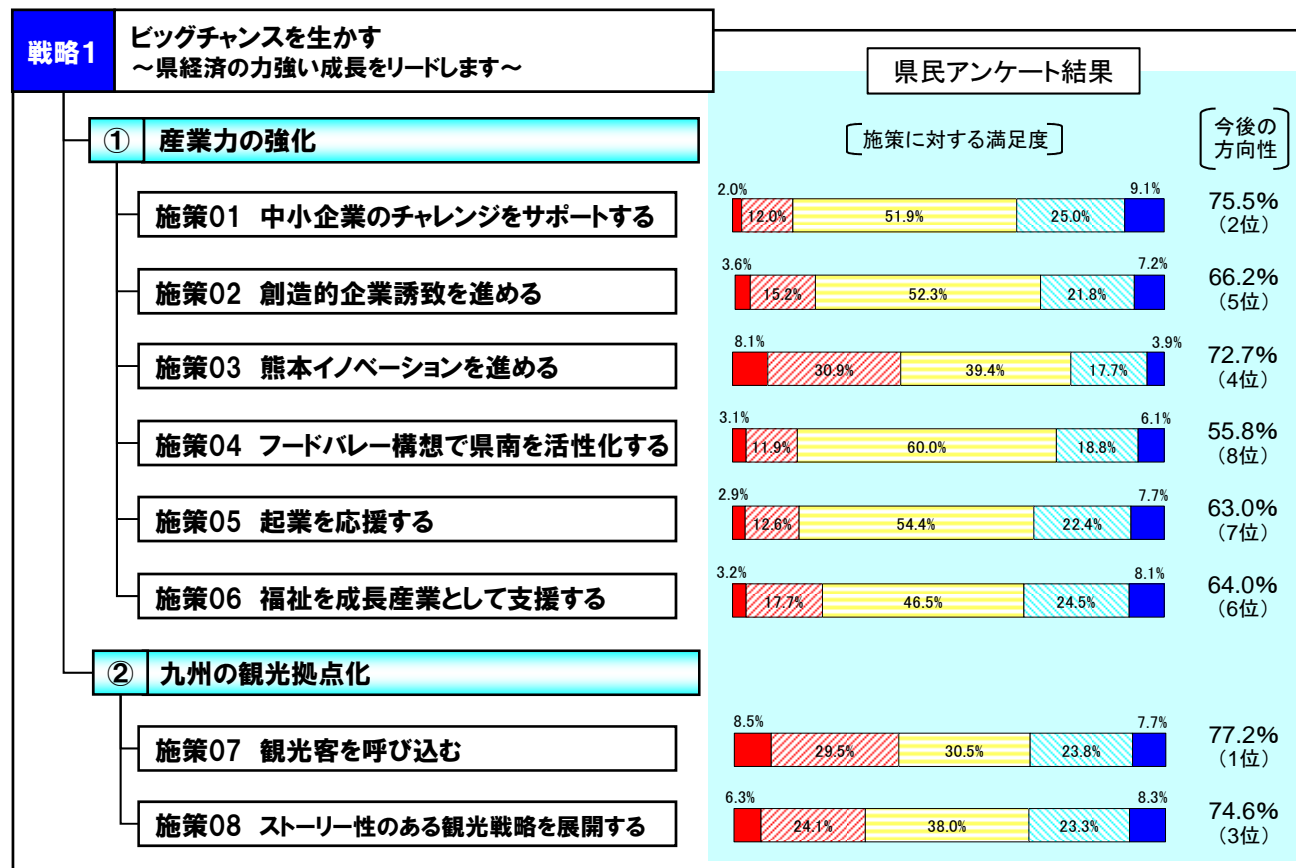


(総括評価表 I)

“活力を創る”～「活力溢れる元氣なくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略



※県民アンケート(「幸せ実感くまもと4カ年戦略」に関する意識調査)結果について

「施策に対する満足度」
次の5段階で示したもの。

「今後の方向性」
各施策の今後の方向性として、「もっと力を入れて取り組んでほしい」と回答した人の割合を示したもの。
《()内は同施策の戦略内での順位》。

■ 満足 □ やや満足 □ どちらでもない □ やや不満 ■ 不満

2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」欄及び「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

| 目標値の種類 | 「指標の動向」 | 「達成状況」 |
|--------------------------|---------|--------|
| 戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標 | | ☆ |
| 最終年度(単年)の実績値で見ていく指標 | | ★ |

| 指標 | 戦略策定時(年度) | 評価時(H25年度) | 単位 | 指標の動向 | 目標値(H27年度) | 種類 | 達成状況 | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|--------------------|-----------|--------|------------|---------------------|------|---|
| 戦略1 | リーディング企業育成数 | 1社(H23) | 3 | 社 | | 20~30社 | 累計 | |
| | 企業立地件数 | 91件/4年(H20~H23) | 30 | 件 | | 100件/4年(H24~H27) | 累計 | |
| | 企業立地による新規雇用予定者数 | 5,299人/4年(H20~H23) | 1,213 | 人 | | 5,500人/4年(H24~H27) | 累計 | |
| | 【補】新たな材料(有機薄膜、熊大Mg等)を活用した商品の市場化件数 | 0件(H23) | 2 | 件 | | 10件 | 累計 | |
| ② | 観光客総数 | 5,723万人/年(H22) | 5,920 | 万人 | | 6,000万人/年 | 単年 | |
| | 延べ宿泊者数 | 647万人/年(H22) | 663 | 万人 | | 750万人/年 | 単年 | |
| | 【補】くまモンツイッターフォロワー数 | 5万人(H23) | 19 | 万人 | | 15万人 | 累計 | ☆ |
| 戦略2 | 認定農業者や地域営農組織等へ集積する農地面積 | — | 1,780 | ha | | 8,400ha/4年(H24~H27) | 累計 | |
| | 新規就業者数(新規就農者+雇用就農者)+新規林業就業者+新規漁業就業者 | 414人/年(H22) | 561 | 人 | | 526人/年 | 単年 | ★ |
| | 【補】モデル産地でのPGCの効果(水稲のコスト(水稲経営費)削減) | 86,194円/10a(H22) | 85,727 | 円/10a | | 68,000円/10a | 単年 | |
| | 木質バイオマス加温機の導入台数 | 4台(H23) | 64 | 台 | | 170台 | 累計 | |
| | ② 農業への参入法人数 | 50法人(H22) | 71 | 法人 | | 100法人 | 累計 | |
| | 林建連携数(林建連携協定締結数) | 35社(H22) | 40 | 社 | | 60社 | 累計 | |
| ③ | くまもとグリーン農業に取り組む農業者 | 2,844戸(H23) | 6,876 | 戸 | | 23,000戸 | 累計 | |
| | 県産農林水産物の認知度* <※「くまもとの赤」の認知度> | — | 16.5 | % | | 35% | 単年 | |
| 戦略3 | 県内の主要な都市農村交流促進施設の年間来訪者数 | 531万人/年(H22) | 567 | 万人 | | 590万人/年 | 単年 | |
| | ① 新幹線利用者数(新幹線4駅の乗降客数) | 637万人/年(推計値) | 657 | 万人 | | 670万人/年 | 単年 | |
| | 【補】ロアッソ熊本ホームゲーム1試合平均入場者数 | 6,928人(H23) | 5,855 | 人 | | 前年度の平均入場者数を上回る | 単年 | |
| ② | 【補】地域づくりチャレンジ推進事業(4分野)の実施件数 | 74件/年(H23) | 52 | 件 | | 80~100件/年 | 単年 | |
| 戦略4 | ① 県内への新エネルギー導入量(原油換算) | 32万kL/年(H22) | 37 | 万kL/年 | | 40万kL/年 | 単年 | |
| | 【補】木質バイオマス加温機の導入台数<再掲> | 4台(H23) | 64 | 台 | | 170台 | 累計 | |
| | 【補】メガソーラーの設置数 | 2件(H23) | 23 | 件 | | 10件 | 累計 | ☆ |
| | 【補】住宅用太陽光発電設備の設置率 | 5.63% 全国2位(H22) | 8.88 全国2位 | %・全国順位 | | 全国1位 | 単年 | |
| | ② 県のエネルギー消費量(将来推計値)からの削減量(原油換算) | — | 13 | 万kL/年 | | 18万kL/年 | 単年 | |
| 【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数 | 304会員(H23) | 345 | 会員 | | 600会員 | 累計 | | |

*「県産農林水産物の認知度」は戦略策定時との比較ができないため、「指標の動向」を暫定的にで表現しています。

3 平成24年度の主な成果・今後の課題や方向性

○：平成24年度の主な成果
●：今後の課題や方向性

【戦略1】ビッグチャンスを生かす

- リーディング企業(付加価値10億円以上)が3社に増加。
- 25カ所の電気自動車用充電器設置、有機薄膜の2件の商品化や次世代マグネシウム合金の8件の試作品開発等、新たな産業の展開が進展。
- 創造的企業誘致の推進により、6件の研究開発部門を含む30件の立地件数を達成。
- 「食」関連産業の振興を通じた県南地域の活性化をめざす「くまもと県南フードバレー構想」を策定。
- 7月に「ようこそくまもと観光立県推進計画」を策定し、熊本を起点とした九州の周遊ルート開発や、阿蘇を中心としたキャンペーン等を展開。熊本広域大水害により減少した観光客数が12月以降に前年並みまで回復。
- くまモンはツイッターのフォロワー数が19万人を超え、全国的な認知度と人気を獲得。
- 金融機関・経営支援機関の連携による支援を通じた中小企業の経営力の強化や、複雑化する経営課題への対応。
- 次世代自動車の普及に向けた環境整備、有機薄膜と次世代マグネシウム合金の早期の事業化・市場化。
- 誘致活動の磨き上げや企業が最先端のものづくりに取り組める開発環境の構築。
- 「くまもと県南フードバレー推進協議会」会員のニーズを反映した事業展開や仕組みづくり。
- 九州周遊の促進に向けた隣県等との連携。

【戦略2】稼げる農林水産業への挑戦

- 農地集積面積が前年より3割増の1,780haとなり、農地集積の加速化の兆し。また、意欲ある農業者等を対象とした「くまもと農業アカデミー」を設立し、受講が859件となるなど、担い手の育成も進展。
- 木質バイオマス燃料の生産・供給を開始するとともに、モデル地域に60台の加温機を実証導入。
- 農商工連携等の事業者による新商品から販路開拓に至った件数は62件。また、農業への新規参入は21件。
- 「くまもとグリーン農業」が大幅増(販売コーナー31店舗、生産宣言約7,000件、応援宣言約3,000件)。
- 梨「秋麗」の光センサー選果体制整備、栗「ぼろたん」の本格販売開始、「トルコギキョウ」の23万本出荷、「クマモト・オイスター」の約8千個の試験販売など、「くまもとイチ押しブランド」が着実に進展。米の食味ランキングで「森のくまさん」が最高評価。「くまもとの赤」の統一ブランドイメージの発信に向け199品の加工品を登録。
- 農地集積の加速化に向けた受け手、出し手及び関係機関との密な連携や既存営農組織の法人化促進。また、農業アカデミーのカリキュラム充実、県内全域での就農研修機関の設置等による担い手の確保・育成。
- 木質バイオマス燃料のコスト低減・品質確保・安定供給。
- 6次産業化や商工業連携による農産加工拡大等への継続支援。また、農業参入企業への継続支援。
- 「グリーン農業」の認知度の向上、通信販売などの多様なニーズへの対応した「マーク」表示の拡大。
- こだわりのある品質管理体制整備によるトップグレードの産品づくり。また、民間と連携した「くまもとの赤」の認知度向上の取組み。

【戦略3】地域力を高める

- 各地域でのおもてなしの機運を醸成するため、13件の取組みに対する助成を実施。
- 都市と農山漁村の交流に取り組む市町村等(17団体)の支援により集落等が活性化し、農業者の意欲が向上。
- 県民とロアッソ熊本との交流拡大のため、サッカー教室及び交流会を5回開催し、202名参加。
- 県内4カ所[県北、県央、県南、天草]に広域本部を設置。政令指定都市以外の地域振興など広域的な取組みの推進や、機動性及び専門性の向上を図る体制を強化。
- 県南活性化に向けた八代港の水深14m岸壁第1バース及び泊地整備が完成。水俣・芦北地域では、「水俣・芦北地域雇用創造協議会」を中心とした取組みの展開により、148人の新たな雇用を創出。また、五木村では年間観光客総数15万人を達成したほか、宮原五木線の頭地大橋を含む区間を供用開始し、住民の利便性が向上。
- 「選ばれる観光地」となるための県民総参加によるおもてなしの向上。
- 合意形成に時間を要する地域づくりの取組み等への支援のあり方の検討。
- 八代港の整備促進、地元根付いた五木村の産業振興と雇用創出。
- 買い物弱者問題等の解決に向けたソーシャルビジネスの立ち上げ展開、バス路線の再編等による利便性の向上。
- 事業者等と連携した地域におけるICT活用ニーズの把握やICT活用モデルの県内各地域への普及・推進。

【戦略4】未来型エネルギーのトップランナー

- 南阿蘇村で売電モデル第1号となる小水力発電所の建設準備が進展。太陽光発電をビニールハウスや養殖イカダに活用する実証事業を実施。
- 地域と産学官が連携した「熊本県地熱・温泉熱研究会」を設立。小国町で2件の温泉熱発電事業化の検討を開始。
- 23件のメガソーラーの立地が決定し、発電出力は82メガワット。
- ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員数が345へと着実に増加。また、住宅向け76件、中小企業等向け16件にスマートメーターやLED照明などの導入を補助。
- 小水力発電への県内企業・団体等の参画促進。施設園芸・海面養殖で使用可能な太陽光発電の製品化推進。
- 地熱・温泉熱研究会を通じた地域住民や温泉関係者との合意形成。
- 半導体関連産業の集積や地域資源(エネルギー・地域企業・人等)を活かしたエネルギー関連産業の県内への立地促進や、地域企業のエネルギー関連産業への進出支援。
- 中小企業や住宅の省エネ設備の導入支援やスマートメーター等の導入による節電効果の「見える化」。